

## 地球温暖化対策

今年の夏は猛暑でした。この夏、気候危機を実感した方も多かったと思います。また、最近では、地球が「温暖化」しているのではなく、地球は「沸騰化」していると言われていています。

世界の平均気温は7月7日に17.24度を記録し、過去最高を更新しました。(アメリカ国立気象局によると、アメリカでは人口の約3分の1に当たる1億3千万人に対して、何らかの高気温に関する勧告が出されたそうです。また、テキサス州エルパソでは27日間にわたって最高気温が37度を超え記録更新したそうです。イギリスでも6月の気温が観測史上最高を記録し、北アフリカや中東、アジアでも、これまでにない暑さに襲われました。)

専門家によると、この例外的な暑さを異常だと思うのは簡単だが、絶望的なことに、気候変動の結果、記録を更新するような高気温が普通になっているそうです。(そのため、近年、世界中で頻発し、毎年激化している高温や熱波、干ばつなどを、日本ではまだ「異常気象」と呼んでいます。海外では「極端気象」と呼ぶことが多いということです。)

国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、世界の平均気温が今後約1度上昇すると、「50年に1度」の猛烈な熱波の頻度は産業革命前の14倍になると予測(2021年8月)し気候危機に警鐘を鳴らしましたが、この夏、世界は観測史上最も暑い夏になる可能性があるという発表(世界気象機関)は、世界が危険な道を進んでいることを示していると言われていています。

イギリスの気象科学者、リチャード・ベッツ教授は、「世界の気温が高いのは以外でも何でもない。ずっと前から分かっていたことを、あらためて確認しているだけだ。大気中の温室効果ガスを増やすのをやめない限り、極端な現象は増え続けるだろう」と話されています。

快適な地球環境を次世代につないでいくために、脱炭素社会の実現は待ったなしです。まずは、「2050年ゼロカーボンシティ」の実現に向け、市の具体策をお尋ねします。